

全容概略調査結果（史料・聞き取り調査）の概要

委員会後修正版

1.史料・聞き取り調査の進捗

- ・主な史料は収集済み。
- ・今後、地図の取得や聞き取り調査により、邸宅の特徴、敷地の変遷等を整理する。

調査項目	調査方法	旧滄浪閣 (伊藤博文別邸跡・ 旧李王家別邸)	旧大隈重信別邸・ 旧古河別邸	陸奥宗光別邸跡・ 旧古河別邸	西園寺公望別邸 跡・旧池田成彬邸
史料収集	新聞	・全国紙と地方紙(横浜貿易新報)から、利用、増改築、地震被害に関する記事を確認	整理中	整理中	整理中 継続 (地方紙のみ完了)
	所有者住居資料	・紳士録等から所有者の住居(本邸)、系譜を確認	完了	完了	完了
	古写真	・関係施設等への聞き取りや新聞の掲載を確認	継続 檜橋別邸時代不明	継続 古河邸時代不明	継続 古河邸時代不明
	古図面	・設計者・施工者への聞き取り、史料データの検索により確認	継続 李王家別邸図、ホテル改築図を収集済	継続 大隈別邸図を収集済 古河邸時代不明	継続 陸奥別邸図を収集済 古河邸時代不明
	文献 (論文・書籍)	・大磯別荘の研究論文、所有者の伝記等を確認	継続	継続	継続
	地図、航空写真	・国土地理院 航空写真、大磯町明細地図等を確認	継続 (地図未収集)	継続 (地図未収集)	継続 (地図未収集)
	公図、台帳	・登記簿謄本、行政資料等を確認	継続 (土地宝典未収集)	継続 (土地宝典未収集)	継続 (土地宝典未収集)
聞き取り	所有者:親類・縁者	・邸宅に係る口伝や古写真・史料を確認	継続	継続	継続 未
	所有者:民間事業者	・利用や改修履歴の情報を確認	未	継続	継続 完了
	地域住民 等	・明治・大正から続く商店関係者に確認	未	未	未

● 過年度の不明点

- ・ 創建時の建物の様相と増改築の変遷
- ・ 李王家の邸宅の使い方
- ・ 現存建物に残る伊藤博文邸との関わり(旧材利用の有無等)

● 今年度新たに確認した事項

- ・ 伊藤博文のもとに山縣、西園寺、大隈、岩崎彌之助等、政財界の要人が来訪。
- ・ 伊藤の滄浪閣には李娘がたびたび滞在し、伊藤没後も梅子夫人が居住する滄浪閣を夫婦で訪れるなど交流があった。
- ・ 昭和26年に民間事業者が取得した後の増改築の変遷が大よそ判明。
国道側のレストラン部分は昭和27～28年の間に建てられたと推定。(昭和28年の火災の記事により)

● 今後の調査

- 土地台帳と公図を照合し、敷地の変遷を明らかにする。
- 李王家本邸、別邸の図面を収集、平面計画等の特徴を整理し、邸宅の価値及び構成要素に反映する。

2-2. 旧滄浪閣(伊藤博文邸跡・李王家別邸) 年譜

現時点の史料・聞き取り調査結果から作成した変遷は以下の通り。

年代	明治	大正	昭和	平成	令和							
所有者	M29 1896	M42 1909	T10 1921	T12 1923	T15 1926	S20 1945	S21 1946	S26 1951	S28 1951	H4 1992	H20 2008	R1 2019
出来事	伊藤博文	李王家										地方公共団体・国
	大磯町西小磯に「滄浪閣」完成 和風平屋(茅葺)とレンガ造の二階建 瓦葺の洋館を建築【図面あり】 伊藤はほとんど帰らず心気転換の目的で数日滞在するのみ 政財界の要人が来訪 山縣、西園寺、大隈、岩崎彌之助等、 李娘がたびたび滞在に訪れる	伊藤博文の養子である博邦から李王家に譲渡され、李王家別邸となる 博文没後、伊藤博邦が相続 伊藤夫人(梅子)の住居となる 北白川宮妃殿下・李王家夫婦が來訪	和洋折衷の邸宅を建築→「滄浪閣」旧材を一部利用しながら再建」と言わ れている【現存・図面あり】 避暑避寒のため、滄浪閣滞在 関東大震災で滄浪閣倒壊	臣籍降下により財産処分 工のに接收(宿泊施設として 利用されたと言われている)	當時法制局長官であつた檜橋が別邸 として所有	宿泊施設として利用(ホテル滄浪閣)	ボイラーハウスから出火し、調理室や本 館八十坪を焼く(レストランはホテルが建築)	結婚式や宴会等の施設としてバン ケット、チャペル等を増設 民間事業者が購入	利活用せず 大磯町有形文化財に指定(建造物附 杉戸絵4枚)	明治記念大磯邸園事業区域として 建物は国の管理となる		

*年表文章赤字は基本計画時(H31)からの追記事項

3-1. 旧大隈重信別邸・旧古河別邸 調査結果

● 過年度の不明点

- ・ 大隈重信が購入した別荘の前の所有者、建物の様相と敷地区域
- ・ 現存建物に残る創建時の範囲、現存する庭の作庭年代
- ・ 大隈、古河家の邸宅の使い方

● 今年度新たに確認した事項

- ・ 大隈重信が明治30年に吉川慎一郎(父吉川泰次郎は日本郵船2代目社長)の別邸を購入。明治28年に亡くなった泰次郎の別邸だった可能性あり。
- ・ 大隈重信の別邸に皇族(常宮^{つねのみや}、周宮^{かねのみや※1})が滞在した記録がある。
- ・ 大隈から古河市兵衛が購入後は、家族で避暑に訪れていた。
毎年、古河財閥が経営する足尾銅山労働者の慰労会等にも利用。^{※2}
- ・ 民間事業者には富士の間を宴会の場として利用されている。

※1 常宮(竹田宮恒久王妃昌子内親王) 周宮(成久王妃房子内親王)

※2 古河家では毎年足尾の銅山労働者大勢を大磯に招待して慰安会を催すの慣習であった。「新輯王城山莊隨筆」(1947)高橋誠一郎・和木書店

● 今後の調査

- 大隈大磯別邸の出納帳(大磯地所買入其他諸費踏査他関係書類)の分析と土地台帳と公図の照合により、大隈重信が購入した際の建物の様相と敷地区域を明らかにする。
- 聞取り調査等により、古河別邸時代の使われ方を調査する。

3-2. 旧大隈重信別邸・旧古河別邸 年譜

現時点の史料・聞き取り調査結果から作成した変遷は以下の通り。

年代	明治	大正	昭和	平成	令和					
所有者	M30 1897 以前	M30 1897	M33 1900	M34 1901	M36 1903	M38 1905	S5 1930	S21 1946	S23 1948	R1 2019
出来事	<p>吉川（泰次郎） 慎一郎</p> <p>大隈重信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大磯に別荘を所有 ・ 吉川から別邸を購入し、一部を増改修【現存・図面あり】 ・ 常宮と周宮が大隈別邸に滞在 	<p>古河家</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 古河市兵衛が別邸として購入 ・ 每年夏に家族を連れて避暑に訪れる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市兵衛没後潤吉へ引き継がれる ・ 潤吉没後虎之助へ引き継がれる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 每年足尾鉱山労働者の慰安会を催す 	<p>民間事業者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 古河家大磯別邸内の多くの建物に関する改築願いが出される ・ 水回りを中心とした増改築 	<p>従純の所有となる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 富士の間を利用して宴会を催す 	<p>地方公共団体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 明治記念大磯邸園事業区域として建物は国の管理となる 		

4-1. 陸奥宗光別邸跡・旧古河別邸 調査結果

● 過年度の不明点

- ・ 陸奥宗光が所有した敷地区域
- ・ 現存建物に残る創建時の範囲と、庭園の作庭年代
- ・ 古河家の邸宅の使い方

● 今年度新たに確認した事項

- ・ 関東大震災で陸奥別邸が倒壊後、翌年(大正13年)に建てられたといわれていたが、古河別邸の改築願いが昭和5年に町に出されていることから、竣工は大正13年～昭和5年の間になる。
- ・ 古河家では避暑避寒のため利用し、三代目虎之助の夫人が一時居住するなど、頻繁に利用された。
また、古河財閥が経営する足尾銅山労働者の慰労会等も毎年開催され、公私とも利用されていた。
- ・ 昭和31年に民間事業者に所有移転後、平成12年頃まで住込みで管理されていた。

● 今後の調査

- 土地台帳と公図を照合し、敷地の変遷を明らかにする。
- 昭和5年に複数の建物の申請が出されていることから、大磯町の行政資料をもとに、地番毎の建築行為を確認し、現存邸宅の竣工年を明らかにする。
- 聞取り調査等により、古河別邸時代の使われ方を調査する。

4-2. 陸奥宗光別邸跡・旧古河別邸 年譜

現時点の史料・聞き取り調査結果から作成した変遷は以下の通り。

年代	明治	大正	昭和	平成	令和						
所有者	M27 1894	M30 1897	M37 1904	M38 1905	T6 1917	T12 1923	T13 1924	S5 1930	S20 1945	S31 1956	R1 2019
出来事	陸奥宗光	古河家									地方公共団体・国
	病気療養のため大磯に別荘を建築 「蹇蹇録」を口述筆記で仕上げる。 山縣有朋、伊藤博文、原敬・西園寺公望らが来訪	宗光没後陸奥夫人(亮子)が相続 潤吉が病気療養に時折滞在 長男廣吉、次男古河潤吉に所有が移転	古河潤吉が別邸として所有 【図面あり】	潤吉死去により古河虎之助が所有 関東大震災で一部(旧東館別邸)大破 【現存・図面なし】	虎之助の母が避暑避寒のため利用 「聴漁莊」と名付ける。旧建物(材)は、足尾町へ移築されたが現存せず	古河家大磯別邸内の多くの建物に関する改築願いが出される 虎之助氏新築落成の別邸で清遊毎年足尾鉱山労働者の慰安会を催す 力士を連れて相撲を楽しむ(虎之助)	戦後虎之助夫人が居住	迎賓施設「大磯荘」として利用 古河家がつくった民間事業者に所有移転	訪日欧米企業を招き、接待の場として利用	平成12年頃まで住込みで管理	明治記念大磯邸園事業区域として建物は国の管理となる

※年表文章赤字は基本計画時(H31)からの追記事項

5-1. 西園寺公望別邸跡・旧池田成彬邸 調査結果

● 過年度の不明点

- ・ 西園寺公望別邸時代の様相
- ・ 現存建物の構造、修繕履歴等

● 今年度新たに分かった事項

- ・ 伊藤の勧めで西園寺公望が購入した別邸(隣荘)は、西園寺自ら図面を引き、大工に指示して造らせた。参考文献から、西園寺別邸の概要が明らかになった。
- ・ 施工会社所有図面が見つかり、設計当時(昭和初期)の様相が明らかになった。

● 今後の調査

- 土地台帳と公図を照合し、敷地の変遷を明らかにする。
- 現存する設計図を収集し、概略の建物調査を補足・修正する。
- 部屋の利用や設えについて、聞き取り等の詳細調査で確認する。

5-2. 西園寺公望別邸跡・旧池田成彬邸 年譜

現時点の史料・聞き取り調査結果から作成した変遷は以下の通り。

年代	明治	大正	昭和	平成	令和					
	M32 1899	T6 1917	T12 1923	S7 1932	S25 1950	S27 1952	S29 1954	S54 1979	H1 1989	R1 2019
所有者	西園寺公望	池田成彬		民間事業者						
出来事	伊藤の勧めもあり、滄浪閣の西隣に茅葺の「隣荘」を建築(11月完成) 敷地はおよそ四千四百坪	西園寺自ら図面を引き、大工に指示 西園寺公望から購入、別邸として利用 伊藤没後、興津「坐漁荘」に別荘を移し、池田成彬に売却	大磯に地下1階、地上2階(屋根裏部屋付)の洋館を建築【現存・図面あり】 関東大震災後 本邸と大磯別邸等の設計を曾禰中條建築事務所の中條精一郎に依頼	ホーリー・シヤン・ジリアは英國で池田が購入 大磯町の自宅で池田が没後、親族が相続 退職後、大磯の自宅で静養の日々を過ごす	かつて池田が務めた民間事業者に所有移転 役員寮として使用	1980年中頃から利用実績なし 日本建築学会「大正・昭和・戦前の近代名建築」に選定される 神奈川県より「かながわの建築物百選」に選定				利活用されていない

※年表文章赤字は基本計画時(H31)からの追記事項